



經書庭文

金示

1655
3

仙傳平氏奉分傳



五六之是

月錄



一 今宗盛一門振舞

○ 大樽只雅見此うぬ
有揚子七福神此掛物なる人
年之末の事也

事之末の事也

人乃此の事なり



○入つては知る
其盛人の物
書らばふありの草

二 今様探り物

捨草紙が吳見の物種

思うもむいものなるは

思うもむいものなるは

三 今盛盛教訓林

○の流町人の書意早とさうとさうとさう

とさうとさうとさうとさうとさうとさう

表なる事

仙桃平氏年々分添

一 今盛盛一門振舞

を年し書らう。久人大海は狗英用とわたりて
乃分別寒の四よあるはねとせとせとせとせとせ
也一はち書きたるは賞也。然うては分より高貴
向也と悦なごのれをより。或は代もあを死はれも
大海は御佛。西の八舟山より乃上り流は御
乃勢也。親也や方助是上りてはたせまけは流
目鼻の下中なりとるはたき子を方ハ一寸中も
油野大鼓と。分限若世方ふはなり。年の春春乃







一 此の如くも世にけりや... 流くとも少利成
 ぬ情とて取れり... 一は此の情を...
 一 商人の丸とて... 商賣の事... 高門
 一 此の如くも世にけりや... 流くとも少利成
 ぬ情とて取れり... 一は此の情を...
 一 商人の丸とて... 商賣の事... 高門
 一 此の如くも世にけりや... 流くとも少利成
 ぬ情とて取れり... 一は此の情を...
 一 商人の丸とて... 商賣の事... 高門

俄り情をそとど天理をこひけりゆめたるに恨むもあはれなり
 別後人より代りてもまゐるをてせよまはれをあらしく
 二首のりてを梅刺ぬご下油とまじりて入れゆくはけり
 三首もすまじりて人のなほはけりゆめたるに恨むもあはれなり
 実のゆめもも浦宮をば親方ゆめたるに恨むもあはれなり
 悪伴よりあはれぬまじりてゆめたるに恨むもあはれなり
 自分よりあはれぬまじりてゆめたるに恨むもあはれなり
 かなしきあはれぬまじりてゆめたるに恨むもあはれなり
 ともをあはれぬまじりてゆめたるに恨むもあはれなり
 光のゆめもあはれぬまじりてゆめたるに恨むもあはれなり
 ふゆてあはれぬまじりてゆめたるに恨むもあはれなり



